



人が笑む、街も笑む。
マーチング委員会情報誌
[プラス・エム]

2020. 6



カバーアートの街で活動する
『奈良マーチング委員会』の
情報を裏表紙でご紹介します! ▶▶▶

今号の街／奈良県奈良市佐紀町

作品タイトル：朱雀門と近鉄電車 作家：上野 啓太

新幹線で京都へ到着、奈良へはそのままJR線…。「近鉄電車」になじみの無い旅行者の方にはありがたいですが、実は京都からは近鉄電車を選択すると世界でも唯一、世界遺産のど真ん中を突っ走る「平城宮跡」の景色が楽しめますよ。大和西大寺駅から新大宮駅間の車窓をぜひお楽しみください。

特集：マーチング活動事例紹介① 津軽ひろさきマーチング委員会

「地域のために」の活動が共感を呼び、次々とビジネスへと繋がっていく流れに

特集：マーチング活動事例紹介② 大田マーチング委員会

一つ一つのご縁を大切に。その積み重ねでチャンスが広がった

マーチング委員会「日本全国おすすめ情報」

地域活性の取り組み紹介「キラリ輝く地域メディア」



一般社団法人
マーチング委員会®



青森県 弘前市
津軽ひろさきマーチング委員会
代表：漆澤 知昭

「地域のために」の活動が共感を呼び、 次々とビジネスへと繋がっていく流れに



昭和50年代の弘前駅前通り

地域大型ショッピングセンター とのコラボイベント開催

2011年に「ひろさきひとまち百景」からスタートした津軽ひろさきマーチング委員会では、2018年から「ひろさき古街（ふるまち）百景」も始めた。これは古い街並の白黒写真を集めて展示し、それを見た方々に「ここは何色だった」「当時はこうだったんだ」などの情報をいただいてイラストに起こし、写真の中の古い街並を蘇らせる趣旨だ。大変好評で、何度も開催されている。

すると、地元のイトヨーカドー弘前店から連絡があった。開店43周年のイベント企画を考えているところで「マーチング委員会さん、40年くらい前の街並の写真とかいろんなイラストを持っていま

すよね。協力してくれませんか。」「ひろさきひとまち百景」では昭和50年代の弘前駅前のイラストにも、最近のイラストにも、ヨーカドーが描かれており、建物におなじみの白いハトのマークが輝いている。それだけでなく、弘前の過去や現在の風景がたくさんイラスト化されている。そこで、イトヨーカドー弘前店43周年イベントとして、マーチング委員会のイラスト展示会を開催することになった。イラストは新作3点を含めて全42点。来場者を対象に気に入ったイラストに投票してもらい人気投票を行い、上位に選ばれたイラストによるオリジナルカレンダーをプレゼントすることにした。

第1回は2019年10月16日～31日。第2回目は告知を打って大きく展開し、期間は2019年12月21日～2020年1月13日。

年末年始の時期で帰省客も多く来場し、「すごく懐かしい」「ここにこんな景色の場所があるんだね」などと盛り上がった。



販売のプロからノウハウや 知見を得る機会に

それまで公共施設でイラストの展示を行ってきたマーチング委員会にとって、商業施設でのイベントは初めての取り組み。ヨーカ堂という集客と販売のプロのアドバイスを受けながら協力して実施したこのイベントは勉強になることが多く、マーチング活動の大きな転機にもなったという。

例えば、イラスト展示の合間に現在の風景の写真を飾って「この写真の場所はどこでしょうか?」という「コドコ百景クイズ」を実施し、全問正解者にはオリジナルのグッズをプレゼントした。クイズに全問解答するには会場を隅々まで回ら



なくてはならない仕掛けで、回遊性を高めるとともに来場者の滞留時間を延ばすのが狙いだ。また、展示場からやや離れた場所に物販のコーナーを開設し、イラスト展示を見終わったらそこにイラストやグッズを買える場所があるという流れを作った。イラストはがきは1枚ずつ売ると絵柄によって在庫に偏りができるのでカテゴリでまとめて販売する、客層に合わせた組み合わせでパッケージ化して抱き合わせ(バンドル)販売する、などのノウハウもヨカ堂から教示してもらった。

さらに、マーチング委員会のイラストを使った年賀はがきも置いて欲しいとヨカ堂側から依頼があり、文具玩具コーナーに販売スペースが設けられた。毎日定時に2回、「故郷のイラストを使った年賀はがきで新年のご挨拶はいかがですか」と店内放送までかけてくれる協力ぶりで、売り上げも上々だった。

地域活性化の流れに乗って

この評判を聞きつけた青森図書教育販売(株)という書店の間屋から「青森県内の書店にマーチング委員会のイラストはがきやポチ袋などのグッズを置きたい」という話が舞い込んだ。すでに4店舗で販売が始まっている。



それに続いて、弘前地域の郵便局でもイラストはがきを3枚セット、5枚セットの形で販売することになった。

こうして地域のために活動をしていることが知られてくるとともに、市役所からの名刺の受注も増えている。



新聞の折り込み広告の一部を利用することで広域への配布を可能にしたリーフレット。クイズの内容も、幅広い年代で楽しめる問題に設定している。

むつ市の(株)サンマモルワイナリーが製造販売する津軽ワインのボトルのラベルには、透明インクでマーチングの弘前城のイラストが浮かび上がる特殊印刷を施し、話題になった。

2020年4月オープン予定だった(新型コロナウイルスの影響で延期)弘前れんが倉庫美術館内に(株)JR東日本 青森商業開発が運営する弘前シードル工房の広告や販促物の専売契約と同工房に隣接する弘前BRICK(株)が運営するカフェへの委託販売グッズも受注した。「地元をPRしたいという気持ちが強い企業に入ってもらいたい。だから、津軽ひろさきマーチング委員会の活動をコツコツやっているアサヒ印刷にお願いしたい」と言われたという。

まるで「わらしべ長者」のように、一つのご縁から次のご縁へと繋がって、マーチング委員会の活動が広く展開されて会社の発展に繋がっている。■



POINT! 「やる時は徹底的にやる」

スタート後数年は、漆澤社長が真剣に取り組みたかったが、社員さんに想いが伝わらず動きが良くなかったマーチング委員会活動だった。中途採用で入社した営業の齊藤さんを活動の専任者としてから、風向きが変わった。齊藤さんをマーチング委員会全国大会と一緒に参加し、理念や活動への理解を促したところ、「先義後利」に共感し、熱心にマーチング委員会の活動に取り組むようになった。「片手間ではなく、やる時は徹底してやる、ということが成果に結びついていると実感しています」と社長は語っている。



東京都 品川区
大田マーチング委員会
代表：金井 隆憲

一つ一つのご縁を大切に。 その積み重ねでチャンスが広がった



「池上本門寺 朝市」総門周辺で開催。日本各地の旬の食材や手づくりの工芸品など、早朝から賑わいを見せています。

品川区所在で大田マーチング という課題解消へ

「大田まちなめぐり百景」を展開する大田マーチング委員会の所在地は品川区だが、最寄り駅が大田区の大森駅や大田区とまたがる大森海岸駅である。

活動の一例では、大田区の池上本門寺のイラストやグッズを門前の朝市で販売している。それ以外にもいくつかの地域の活動に参加していたところ、大田区観光協会が興味を持って

くれた事をきっかけとして、「おおた商い観光展」に2018年から出展している。

その流れで、「大田のお土産100選」の公募への応募を勧められた。「これぞ大田のお土産!」と銘打つ製品や商品を認定してPRする大田区の事業だ。

応募する商品はイラストはがきに決めたが、ここで課題が生じた。

まず、事業所の所在地が大田区でないと応募資格がない。さらに、応募する商品を販売する常設の場所があることも応募条件に入っていた。

大田マーチング委員会は品川区の小規模な印刷会社プリント・フォー内にあり、このままでは応募資格もなければ、常設の販売コーナーを設置するスペースの確保も難しい。

そこで、池上本門寺の朝市の事務局であり、また「大田のお土産100選」にも推薦してくれた大田区のデザイン会社ユニオン

ワークスに相談してみた。

その結果、大田マーチング委員会は大田区にあるユニオンワークスとの共同名義にし、ユニオンワークスのセンスの良いオフィスの一角にイラストはがきなどグッズの常設販売コーナーも設置できることになり、課題が解消できたのである。



共同名義への転換により、 チャンスが拡大

こうして「大田のお土産100選」への応募資格を得た。

応募にあたり、産業振興協会から企画の立て方などをレクチャーされるセミナーが実施され、そこでの勉強も有用なものだった。

無事に「大田のお土産100選」の認定を受け、2019年10月の「おおた商い観光展2019」の特設イベントス



ページで表彰された。さらに、表彰された事業者の商品だけを集めたパンフレットおよび今まで表彰された全商品のパンフレットなどが作成され、大田マーチング委員会でもお客様へのアピールに活用している。

このように、思いがけないきっかけで共同名義となったわけだが、それにより、活動の幅が広がるという相乗効果も得られている。

大田区の池上柳本通り会の青果店のビルにオフィスを構えているユニオンワークスは、もともと地域密着のビジネスに特化しており、地元で顔が広い。毎年行われている商店街の「若手リーダー育成塾」にも参加しているのだが、プリント・フォーで「大田まちめぐり百景」のイラスト作成を担当している藤井さんも声をかけてもらって育成塾に参加するようになった。そこで人との交流が広がり取材のコツなどを学べたことが、イラストを描くのに生かされているという。

その流れで、地元商店街のお店を毎月1軒ずつピックアップしてお店紹介と藤井さんが描くイラストを絡めたカレンダーの制作も始まっている。カフェ、花店、呉服店など、様々なお店が登場するのが面白いと評判だ。



カフェのカレンダー



「おおたかい観光展」は、大田区の特徴ある商店、優れた技術で工芸品や日用品などのものづくりに携わる職人・企業及び観光スポットなど、大田区の魅力を多くの方々にご紹介し、人々が集う年に一度の祭典です。



地元でおなじみの存在に

お店のイラストカレンダーの好評に手応えを得て、お店のイラストのコースターを制作してみたところ、これも好評。ノベルティに使いたいなど、早速、オファーが相次いでいる。

商店街はご縁の宝庫といえよう。

そして、商店街は地域を支える基盤でもある。地域密着の活動を行っている大田マーチング委員会に注がれる地元の人々の眼差しは温かく、自治体にも認知されるようになってきた。「そのイラストをこんなことに使ってみようかな」など自治体からの引き合いもきているそうだ。イベントで知り合った地元議員から、その方の事務所に掲示する地図の制作の依頼も受けた。その地図に風景イラストをシールにして都度

貼り付けていく仕掛けになっている。

また、もともと小規模な大田マーチング委員会では人手が限られているので、必然的にイベントに出る人も毎回同じである。それが結果的に顔を知られてさらにご縁が深まっていくメリットになっているのも特徴だ。

何をするにも必ず課題は生じる。それをうまくチャンスに転じた好例が大田マーチング委員会だといえよう。■



POINT! 「誘われたら断らない」

「狙ってやったことは一つもありません。いろんな方のお誘いを断らずに参加していることによって広がりが出てきた」と言う金井社長。その結果、産業振興協会のセミナーや商店街のリーダー育成塾への参加など人材育成の成果も挙げられている。しっかりと地域に根ざして来ているので、新型コロナウイルスの影響でイベントが軒並みキャンセルや延期となっている状況でも、その期間はじっくりイラストを描き溜めれば良いと前向きになれている。



千葉県 船橋市
船橋マーケティング委員会

船橋名産のフレッシュな梨のみを使用 こだわりのコンフィチュール

コンフィチュール「梨っ娘」(なしっこ)

メインの梨はもちろんのこと 砂糖やレモンも国産素材を厳選



Le Café de Pomme (ルカフェドゥポム)
〒273-0003 千葉県船橋市宮本3-9-1 <https://cafe-pomme.jp/>
TEL : 047-433-8893 定休日 : 毎週月・火曜日

厳選された地元の食材を活かしたカジュアルフレンチレストラン「Le Café de Pomme」。新鮮な野菜や魚などを使ったバランス良いメニューが好評ですが、季節の果物を使ったデザートも人気です。そのうちの一つ、コンフィチュール「梨っ娘」に注目。大きくカットした梨と粗くぎんだ梨の2種類を、水分が60%になるまで煮詰めた、食感楽しく果実感

あふれるコンフィチュールです。地元名産品の梨の魅力を際立たせるためにシェフが考案。無添加・保存料不使用で、爽やかな香りと上品な甘さの逸品です。(ふなばしセレクション認証品)



※新型コロナウイルス感染防止に伴う緊急事態宣言発令中は、店内での飲食サービスの提供を自粛させていただいております。営業時間は10:00~16:00の時間短縮営業となっております。



京成電鉄の船橋競馬場駅から徒歩3分、国道14号線沿いに佇む一際おしゃれなフレンチレストラン。



福島県 いわき市
いわきマーケティング委員会

100年続く伝統のパスチャライズ牛乳が 101年目の革新的リニューアル

木村パスチャライズ牛乳・カフェオレ・フルーツオレ

コクと旨味の伝統製法と 「カワイイ」で食卓を彩る



木村ミルクプラント株式会社
〒970-0101 福島県いわき市平下神谷字宿135 <https://kimura-milk.co.jp/>
TEL : 0246-34-2542 mail : info@kimura-milk.co.jp

1918年 福島県いわき市で創業した木村ミルクプラントは、「食文化を通してお客様の健康と幸福を創造する」をモットーに、高品質な乳製品を提供して地元で愛されています。新鮮な牛乳本来の風味と栄養を活かす、伝統的な低温殺菌製法(85℃15分間殺菌)によるパスチャライズ牛乳は、定番の人気商品。今回、創業101年目の取り組み

として、このパスチャライズ牛乳のパッケージをキュートで親しみやすいデザインにリニューアルしました。今後は他の乳飲料や飲むヨーグルトなどにも新たな挑戦を展開していくそうです。



ここから始まりあつという間の100年。これからも地域の皆さまから愛される企業に!!



鍋島裕俊が選ぶ

キラリ☆輝く 地域メディア



ここでご紹介する地域メディアは、折込広告文化研究所代表の鍋島氏が、高く掲げたアンテナに引っかかった、優れた地域メディアばかりです。現在、地域の現況や地域に暮らす人々の生活の息吹を綴り伝える役割を、地域メディアが担い始めています。シビックプライド、その地域へ愛着を持った人が、その地域をより良いものにするために、活動している人を知らせるために、コミュニケーション・ツールとして地域メディアを発信し始めています。その地域に住む“人々の顔がみえるメディア”には無限の可能性が詰まっています。



千葉県 大多喜町

file No. 01

自治体とクリエイターの愛情が詰まった 地域メディア『あてら』

発行:大多喜町、大多喜図書館(天賞文庫) 企画・編集・取材・執筆:片田理恵、片田直久
デザイン:荒川慎一、佐藤有 写真:岩田貴樹、西田香織、山本尚明 印刷:小路印刷所
「あてら」のウェブサイトは、<http://atera-web.com/index.html>



「あてら」は、千葉県は房総半島のほぼ中央に位置する大多喜町を紹介するメディアです。

遠いようで近い町、大多喜町までは、実は東京駅などから高速バスに乗れば1時間20分で着きます。そんな近い大多喜町は田舎です。田んぼの合間を縫って点在する民家の庭先には果樹が植えられ、季節の花が咲き、畑で収穫した野菜を隣近所と分け合って食べる、そんな懐かしくも清々しい風景の中で、大多喜の町人は暮らしています。

そんな素敵な大多喜町を知ってもらいたくて「あてら」は、2016年4月に創刊され、最新号は第9号まで発刊されています。「あてら」という名前は、大多喜町に住むオバアチャンが自分たちのことを「あてら」とか「わてら」と言うのに因んで名付けました。意味は「私たち」です。今回ご紹介させていただく第7号の特集は「大多喜の歩き方」です。歩くスピードの中で見えてくる風景があり、特集の中で二人の大多喜人を紹介しています。



大多喜へ移住して25年。湖を望む山上で暮らし、自ら開拓したという山歩きコース紹介とともに、自然の中で暮らすことの豊かさ、楽しさを語っていただいています。



〈2019年発行7号〉

一人は、イラストレーターでmitosaya 薬草園蒸留所の山本祐布子さん。夫・江口宏志さんとともに、mitosaya薬草園蒸留所をオープンさせた山本さん。青い空の下、初夏の薬草園を歩きます。私(鍋島)は江口宏志さんにお会いして話しをお聴きしており、その物語を「地域イノベーターの紹介」でWebサイトに載せています。これも縁です。

<http://www.fun-site.biz/blogs/nabeshima/?p=393>

もう一人は、画家・書家・陶芸家の高仲健一さん。1993年に大多喜へ移

住し、湖を望む山上で暮らす高仲さん。自ら開拓したという山歩きのコースを、犬たちとともに歩きます。

この大多喜の地域メディア「あてら」、緩やかさが、たまりません。今後が、たのしみです。■

紙メディアだけでなくweb、SNS、Instagramも活用して幅広く、関係人口構築予備軍に対してアピールできているところが◎。あたたかい写真と文章からも愛情を感じます!



鍋島 裕俊

折込広告文化研究所 代表
元 朝日オリコミ社長室長、メディア戦略アドバイザー

朝日新聞社系の折込広告会社に営業で入り、その後、出版、マーケティングを経て、現在、メディアの方向性を考える戦略セクションに所属。折込広告全国大会の分科会やセッションのプロデュースを担当。折込広告に関する過去の著作は、「商業界」「食品商業」「宣伝会議」「販促会議」「物価資料」など多数。

ごあいさつ

「+m」発刊に寄せて

一般社団法人マーチング委員会
理事長 井上 雅博



「あり得ない。なんていうことはあり得ない」
そんな時代だからこそ、我々はブレずに「先義後利」という理念のもと、「美しい日本のまちなみをイラストで発信し、地域

を活性化したい」というマーチング活動に誇りを持って取り組んで行きましょう。「+m」は、そんな思いを伝えるための一つの形です。

私の今の思いを言葉にしてお伝えさせていただきます。これからも何卒よろしくお願ひ致します。

「人間万事塞翁が馬」【にんげんばんじさいおうがうま】

「淮南子(えなんじ)」という紀元前中国で編さんされた思想書の第18篇「人間訓」に、由来となった話は書かれ

ています。代表的な解釈としては「何が幸せで、何が不幸なことにつながるかは分からない」というところだと思います。

「運命」とは自分で作っていくもの。「日々是好日」も努力の結果得られるもの。過去を悔いるでもなく、未来を憂うでもなく、今を一所懸命に生きられれば、すなわち塞翁が馬。

そんなふうにつけてみたいと思いますが、なかなか実行は簡単ではありません。精進精進と自分に言い聞かせる毎日です。

マーチング委員会[今後のスケジュール]

10/16(金)マーチングEXPO in京橋(世界食堂) 11/6(金)アカデミー塾in庄内(酒田市)

マーチング委員会公式ホームページ <http://machi-ing.jp/>

一般社団法人マーチング委員会 [第9回全国大会] 限定公開動画再配信

日時:2020年2月7日(金) 場所:東京都港区芝浦 浜松町ビルディング26F(コニカミノルタジャパン株式会社 本社セミナールーム)

1 基調講演: 『自分たちのチカラでできる、まちおこし!資源や活動をシェアしよう。』

一般社団法人日本事業構想研究所 代表理事 木村 俊昭様



2 今後の施策・他: 新たな情報発信ツール[+m(プラス・エム)]まちなみを伝え、地域を動かす

一般社団法人マーチング委員会 理事 瀬田 章弘、 理事 鍋島 裕俊



3 活動発表: マーチング委員会のJ・K・S 東三河マーチング委員会 金子 徹



4 会員紹介: いわてマーチング委員会、さいたまマーチング委員会
鎌倉・横須賀・三浦マーチング委員会、神戸マーチング委員会



上記1~4の動画の無断転載・複製を固く禁じます。転載等をご希望の方は事務局までご連絡ください。

表紙の街の委員会紹介 奈良マーチング委員会 <http://www.meishin.co.jp/>



奈良のローカルヒーロー「ナライガー」に遭遇するかも?

撮影もこなすディレクター兼営業、デザイナー、プリプレス担当各1名と販売員2名の合計5名。少数精鋭で頑張ってます!企画は全員担当。イラストの制作(特に「企画の部分」)に時間はかかるけど、年月が経っても輝きを失わないイラストに仕上げたい...そんな思いで活動しています。(株)明新社の別事業で展開する『絵図屋』では、他店舗にはない奈良の魅力ある商品が満載です。奈良にお越しの際はぜひお立ち寄りください。

奈良マーチング委員会

所在地 奈良市南京終町3丁目464番地 代表 乾 昌弘
企業HP 株式会社明新社 <http://www.meishin.co.jp/>
連絡先 0742-63-0661
絵図屋HP <http://www.ezuya.jp/>
絵図屋所在地 奈良市餅飯殿町5 奈良もちいどのビル

《絵図屋の営業時間について》
新型コロナウイルス感染防止のため休業の場合がありますので、最新情報はホームページにてご確認ください。